

## 石屋のイロハ(2)

今回は、石工職人が使う道具についての話をします。

当社では、手加工で石の成形や表面仕上げを行うための「せつとう」「のみ」「こやすけ」「ビシャン」「長刃」といった昔ながらの石工道具を今でも使っています。これらの道具は鋼鉄製ですが、使えば当然すり減りますので、その一部は下の写真のような鍛冶作業を行って職人自らメンテナンスしています。

ところで、今の石屋業界ではタンガロイなどの超合金製の工具を使って加工するのが主流です。非常に硬い素材で、鍛冶作業をする必要がないので便利です。当社でも必要に応じてタンガロイの工具で加工しています。

タンガロイの工具を使いつつ、**手間のかかる昔ながらの道具も今なお使っているのは、一つは加工に応じて必要な道具を自分で工夫して作ることができるから。道具作りも大事な技術です。もう一つは、タンガロイの工具では出せない仕上がりの「味」があるからです。タンガロイを使うと仕上がりが固くなるように思います。タンガロイに比べて軟らかい鋼鉄製の道具を使うことによって、仕上がりに柔らかさが生まれるのです。**

手加工の技術とともに、このような石の仕上がりの「味」の違いも含めて伝承するために、今後も昔ながらの道具を使った加工を続けていきます。

【齋藤 繁樹】



## 故人を思い出させるお墓

七月に父が肺炎で亡くなりました。この父(と母)がいて自分がここにあるのだと、昔々から連綿と繋がっていることを改めて考えました。遺影や仏壇に向かって何やかやと話しかけている自分がいます。こうして故人を思い出し、色々考えることを仏教では「出会い直し」と言うと、先日の四十九日法要でお寺様より教わりました。

実家のお墓は大正十四年に祖父が建てたものです。祖父が書家だったこともあり、彫ってある文字は祖父の書によるものです。勢いのある筆運びで若さを感じさせる墓字は、お参りするたびに祖父の姿も思い出します。

お墓を建てるお客様方は、亡くなった大切な人の事を偲び、思い出をこめることを考えられますので、色々御相談を重ねますが、完成して喜んで頂けた時が仕事冥利につける瞬間ですね。実家のお墓も、いつかリフォームする時には墓字の拓本をとってから磨き直し、祖父の字をまた彫り直す方法でしてほしいな、などと石屋の嫁になった私は(実家を出た者であるのにもかかわらず)考えたりしています。

【齋藤 美代子】

## 暮らしに石を(2)



### コーヒー豆用の石臼

手動でコーヒー豆を挽くのは力仕事ですが、石臼だと石の重みで軽〜く挽けます。熱があまり発生しないので挽いた豆の劣化も抑えられます。

### 編集後記

今号もお読みいただきありがとうございます。

文章量が多すぎた前号(夏号)の反省から、今号は写真を多めにしました。そのほうが記事づくりも編集作業もラクちんだということがよく分かりました。

さて、食欲の秋です。私はこの半年で8kg太りました。すると腹の肉に圧迫されて胃袋が小さくなりました。いろいろ食べたいのにすぐ満腹になってしまって食欲が満たされない…というのが最近の悩みです。

次号は来年1月の発行予定です。ではまた。

【齋藤 賢太】

このニュースレターに関するお問い合わせ・ご意見・ご要望はこちらまでお願いします。

お届け先の変更や、ニュースレター送付不要の際もお知らせいただければ幸いです。(担当: 齋藤 賢太)

(有) 齋藤石材店

〒950-3321 新潟市北区葛塚4804 Tel:025-386-3491 Fax:025-386-3493

E-mail: saitougs@beach.ocn.ne.jp ホームページ: <http://www.saitougs.com/>